

別記様式

議 事 録

会議の名称	令和3年度第2回岩倉市総合教育会議
開催日時	令和4年2月21日(月)午後1時から午後1時45分まで
開催場所	岩倉東小学校 1階 さくらんぼ教室
出席者	<p>【構成員】</p> <p>岩倉市長 久保田 桂朗 教育長 野木森 広 教育長職務代理者 江口 雅啓 教育委員 丹羽 礼子 教育委員 松本 恵 教育委員 押谷 誠 教育委員 岩井 義尚</p> <p>【事務局】</p> <p>教育こども未来部長 長谷川 忍 学校教育課長 近藤 玲子 学校教育課管理指導主事 渡辺 まゆみ 学校教育課指導主事 篠田 浩志 学校教育課主幹 酒井 寿(学校教育グループ長) 生涯学習課長 佐野 隆 子育て支援課長 西井上 剛 総務部長 中村 定秋 秘書企画課長 秋田 伸裕 秘書企画課主幹兼 小出 健二(企画政策グループ長) 市制50周年推進担当 秘書企画課主任 伊藤 絵美子</p>
会議の議題	(1) 第2期岩倉市教育大綱について
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1: 岩倉市総合教育会議構成員名簿 ・資料2: 岩倉市教育大綱(案) ・資料3: 第2期岩倉市教育大綱(案)にかかるパブリックコメント実施結果について
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人

その他の事項	議事録作成者 秘書企画課 伊藤 絵美子
--------	---------------------

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
1	開会
2	市長あいさつ
3	協議事項
	（1）第2期岩倉市教育大綱について事務局から説明
押 谷 委 員	：パブリックコメントの結果、提出された意見がなかったというのは、周知不足ではないですか。
事 務 局	：広報紙、市ホームページで周知をしましたが、すべての方に届いているとは言い切れません。周知の方法は引き続き課題であると思います。しかし、同様の周知方法で、意見が提出されるパブリックコメントもありますので、意見が提出されないものとの差をしっかりと受け止め、考えていかなければならないと思います。
押 谷 委 員	：市ホームページで周知しても、市民の関心はコロナ関連の情報ばかりです。一般の方の目に付くところでパブリックコメントを募集するべきだと思います。
教 育 長	：同じ期間に統合保育園の候補地のパブリックコメントを実施しました。こちらにはたくさんの意見をいただきました。
押 谷 委 員	：実際に子どもを保育園に預ける親や関係者は大勢いるので、保育園に関心のある方がホームページを閲覧します。また、インターネットは万能ではないので、ページを閲覧しなければ、情報を得られません。みなさんの目に付くところで周知をしなければ本来のパブリックコメントの趣旨に合っていないと思います。
教 育 長	：ホームページ上、パブリックコメントは同じページに集約されているので、統合保育園への意見があったということは、岩倉市教育振興基本計画の中間見直しへのパブリックコメントが実施されていることを目にしているということです。
押 谷 委 員	：小学校のホームページは写真を閲覧しに訪れる親もいるので、パブリックコメントの周知をするのに良い場所だと思います。
教 育 長	：それは良いアイデアです。
市 長	：パブリックコメントの周知方法が課題とご意見をいただきました。工夫して解決していきたいと思います。それでは、原案を第2期岩倉市教育大綱とさせていただきます。教育大綱以外について、ご意見ありますか。
丹 羽 委 員	：地域と学校の関係はとても大切だと思います。どの分野でも地域抜きでは考えられません。しかし、現状は地域の結びつきは希薄なものになってきてい

ます。それぞれの地域の課題を掘り出し、そこから始めようという市長の冒頭のあいさつを聞いて安心しました。

市長：これから高齢化がますます進み、地域の役割が重要になっていく中で、地域の繋がりが薄れているのは問題です。どんな解決策が出てくるか分かりませんが、まずは市民の皆さんと一緒に考えていくことが大切です。また、市民の皆さんが自主的に行動に移すことも大事だと思います。行政が地域と関わられる部分について、どう改善していくかが課題ですが、市民の皆さんが、地域のことをしっかり考えていく良いきっかけになればと思います。

丹羽委員：区の情報交換の場があり、区の役員の意見だけではなく地域の住民の意見も伝えていこうという意見が出ました。また、子どもと同じくらい高齢者がいますので、高齢者も大切にしてほしいと思います。

市長：地域での健康づくり、居場所づくりについて、大きな役割を果たすのは保健師ですが、ワクチン接種で忙しく、なかなか地域に行けません。また、感染症の関係で人を集めることもできませんが、本音で話し合える場が設けられれば良いと思います。

教育長：それに関連して、地域の担い手不足は全国的な課題です。市長部局で地域力活性化支援事業として小学校区単位でワークショップを行っていただけるといってお話があります。これを機に学校としても、地域にはどんな方がいてどんな課題があるのか知りたいと思い、参画させていただくことになりました。コミュニティ・スクールに繋がる可能性も視野に入れながら進めていこうと思います。コミュニティ・スクールは、地域と共にある学校づくりだけではなく、学校を核とした地域づくりも目指しています。学校を核とした地域づくりは難しいことだとは思いますが、以前とても良い話を聞きました。五条川小学校の通学路安全ボランティアの方で、小学生の登校に毎朝同行する方がいます。通学路の途中には、1階に食堂がある介護施設があります。小学生の登校の時間と介護施設の食事の時間が丁度重なっており、1人の女性が介護施設の食堂から登校する小学生を見ていました。その女性に通学路安全ボランティアの方が、「おはようございます。」と挨拶をすると、その女性は挨拶を返してくれます。すると通学路安全ボランティアの方の挨拶に合わせて、小学生も女性に挨拶をするようになりました。次第に小学生から自発的に挨拶をするようになり、最初は女性1人だったのが、登校時間に合わせて介護施設の方が食堂に集まるようになっていったそうです。介護施設の方はその時間を楽しみにしているそうです。それが、子どもを真ん中に置き、学校と地域が協働することだと考えています。そのようなことが、広がっていけば良いと思います。

押谷委員：学校を核とした地域づくりという考え方は良いが、学校の先生たちは参加するのですか。

教育長：コミュニティ・スクールを作るためには、学校にも地域連携担当を置かなければ

ればいけないと思います。どういうふうに関わるかは、その地域と学校との関係で変わっていくと思います。現状でも地域の方に授業に参加していただいたり、地域のボランティアに参加させていただいたり様々な繋がりが 있습니다。しかし、地域の方々に学校を支援していただいているという域を出ていません。難しいことですが、コミュニティ・スクールが理想としていることは、地域の方も主体的に地域の子ども達を育てるという意識を持ってもらうことです。コミュニティ・スクールを推進する場合、最初に行うことは、地域の子どもにどのように育てほしいかを、地域の代表者にも一緒に考えてもらう機会を設けることです。

押谷委員：学校の先生方は仕事量が多いですが、更に仕事を求めても大丈夫なのですか。何かを求めるのであれば、仕事をスリム化するかもしくは増員をしなければ、先生方のモチベーションは下がってしまいます。

教育長：ありがとうございます。貴重なご意見です。コミュニティ・スクールを導入する場合、学校の働き方改革とどう両立するかが一番の課題です。ですから、増員しなければならないかもしれません。無理のない体制を考えていきたいです。具体的な話をすると、私が五条川小学校で教務主任を務めていた時は、おやじの会の活動が盛んな時期でした。流しそうめんや餅つきのイベントがありました。行事のチラシ作り、チラシの印刷や配布、応募した子どもの集計、当日の参加状況の把握は私の仕事でした。つまり、それだけ仕事は増えます。国が構想しているのは、その仕事を地域の方にやっていただくことです。それが、地域連携コーディネーターです。ただし、その仕事を無償でやっていただけるのかは地域の皆さんと相談しながら考えていかなければいけません。

押谷委員：夫婦共働きを推進している現状、区の仕事をやりたがらない若者は増えていると思います。小学校でも、人と関わりを持ちたがらない子どもが増えています。その子どもが大人になれば、地域との関わりを持ちたがらないことが想定される中で、区の仕事を無償でお願いすることが難しくなっていくと思います。そうであるならば、事業をやる際はクラウドファンディングでお金を募るといった方法もあります。仕事をした人には正当な報酬がなければ、これからの若い人は動かないと思います。

丹羽委員：そのような利己的な意見ばかりで良いのか疑問に思われませんか。

押谷委員：夫婦共働きでなければ、時間がある妻または夫が地域の活動をすることはできと思いますが、時代は逆戻りしません。理想を求めるばかりではなく、短中期で実現可能なシステムを構築する必要があると思います。

市長：無償でお願いするのは難しいと思います。自治体によっては、小学校区単位のコミュニティを作ったり、場合によっては行政区を廃止したりした自治体もあるとのこと。住民が関わることなので、住民の方が納得したうえで進めていく必要があります。また、ごみの関係や道路の修復といった行政と

地域の関わり合いの部分は学校区単位で解決し、区は住民の親睦を深めるような役割を担っていく、そのように役割を分けて考えていかなければいけません。役割を分けるのは時間がかかるとは思いますが、地域への聞き取りから始めたいと思います。

(2) その他

事務局から市立体育館のメモリアル事業について説明

市 長：質問がないようですので、本日の協議事項はすべて終了となります。

4 その他

事務局：今年度の会議はこれで終了です。次回は来年度の開催になります。8月22日の定例教育委員会は市役所での開催ですので、その前に総合教育会議を開催させていただきます。

市 長：以上を持ちまして本日の会議を終了とします。本日は、お忙しいところありがとうございました。